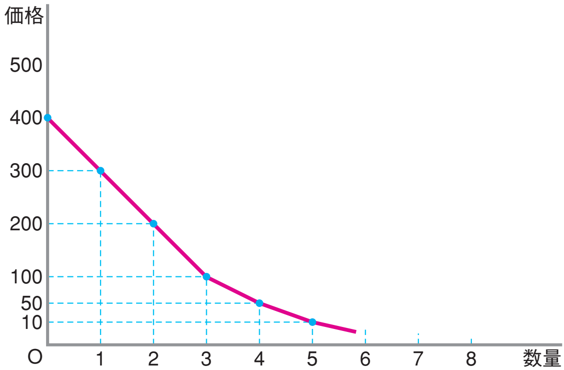
表2.1　価格と購入したい数量の組合せ

価　格	10	50	100	200	300	400	500
数　量	5	4	3	2	1	0	0



縦軸に価格，横軸に需要量を表した図で，価格と需要量との関係を示すのが需要曲線である。

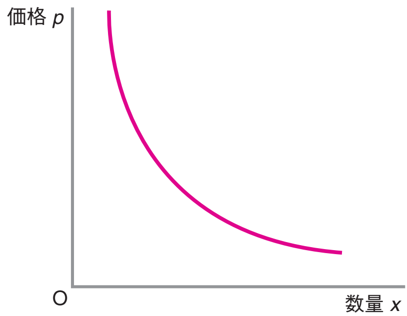
図2.1　需要曲線

ンゴの価格が200円になると，リンゴの総購入量は２個に減少する。さらに，300円に価格が上昇するとしよう。もし最初の１個のリンゴを購入する際の限界的メリットが300円であるとすれば，リンゴは１個しか購入されないだろう。以上のような関係を整理すると下のようになる。

限界的メリット ＞ 限界的デメリット → 購入量の拡大
限界的メリット ＝ 限界的デメリット → 最適な購入量
限界的メリット ＜ 限界的デメリット → 購入量の縮小

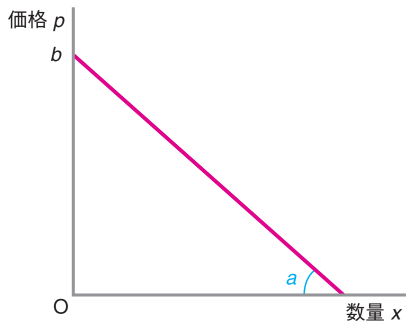
こうした価格と購入したい量（需要量）との組合せが，表2.1に示されている。これを，縦軸に価格，横軸に数量をとる図で表したのが，「需要曲線」である。

図2.1に示すように，通常は価格が上昇するほど需要量は小さくなる。逆にいうと，価格が低下すれば需要量は大きくなる。縦軸に価格，横軸に需要



$p=\frac{a}{x}$を図で表すと，直角双曲線の需要曲線となる。

図2.2　需要曲線の例：直角双曲線



$p=-ax+b$を図で表すと，線形の需要曲線となる。

図2.3　需要曲線の例：線形

量を表すと，需要曲線は右下がりの曲線として描ける。

需要曲線の例

需要曲線は通常右下がりであるが，その形状はいろいろあり得る。たとえば，図2.2では直角の双曲線が描かれている。これは，式では

$$p=\frac{a}{x}\qquad (a>0)$$

の形で定式化される。ここで，p はリンゴの価格，x はリンゴの数量である。$a>0$ はある正の定数（パラメーター）である。また，図2.3では，線形（一次関数）の需要曲線が描かれている。

$$p=-ax+b\qquad (a>0,\ b>0)$$

これら以外にも，いろいろな関数型の需要曲線を想定することができる。